

医療・介護実態調査から見てきた課題

このたび、当センターでは「医療・介護サービス実態調査報告書」をとりまとめました。報告書では様々な課題が明らかになりましたが、とりわけ市内南部地域における医療・介護サービスの不充足が明らかになりました。その概要について一部を報告します。

■調査方法

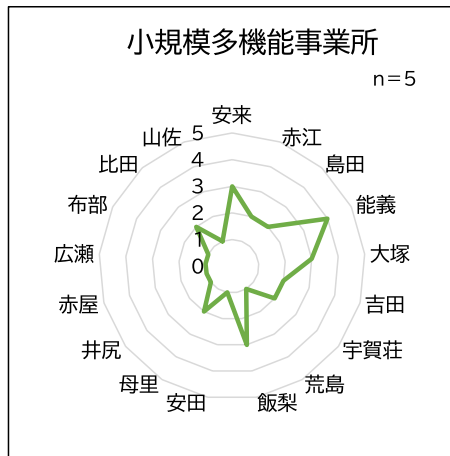
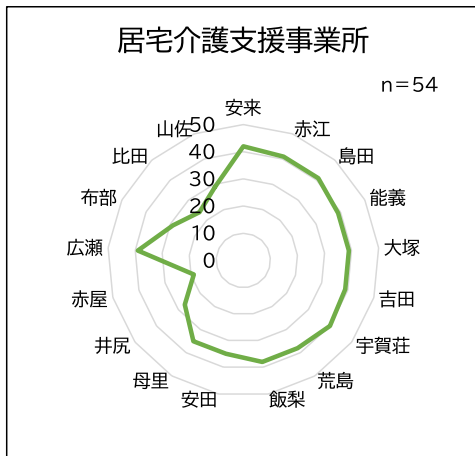
- 1次調査：市内居宅介護支援事業所、小規模多機能事業所ケアマネジャー59名への訪問によるアンケートの配布・回収
- 2次調査：1次調査で関わったことのある、市内外の医療機関、薬局、介護事業所への訪問・郵送によるアンケートの配布・回収

■調査目的

安来市内及び近隣市町で医療・介護を提供している医療機関、介護事業所へのアンケートを通し、実態把握を行うとともに、今後の安来市における医療・介護サービスの提供体制についての検討及び政策形成に資することを目的とする。

■集計結果（一部抜粋）

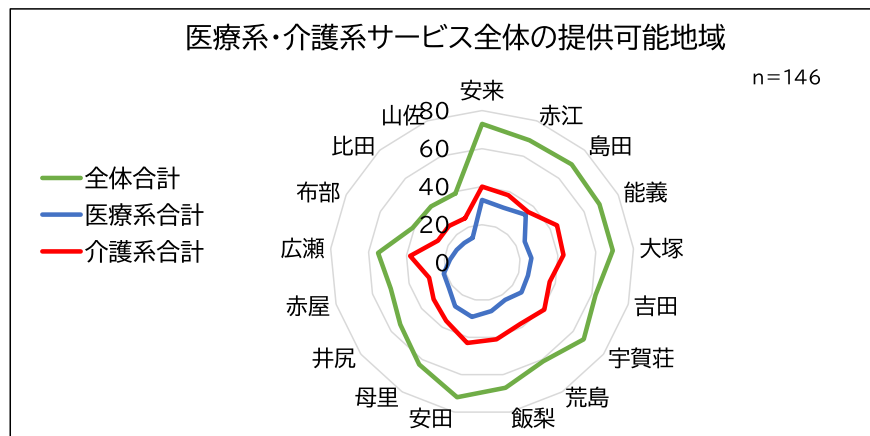
(1) ケアマネジャーの対応可能な地域



居宅介護支援事業所及び小規模多機能事業所のケアマネジャー全てに回答を依頼。市内の居宅介護ケアマネジャーが減少傾向にあり、南部地域で対応できる事業所の数は調査実施時に比べ減少している。

南部地域への居宅介護支援が不足していくことで、介護サービスを必要とする人がサービスを受けられなくなることで深刻な状況になっている。

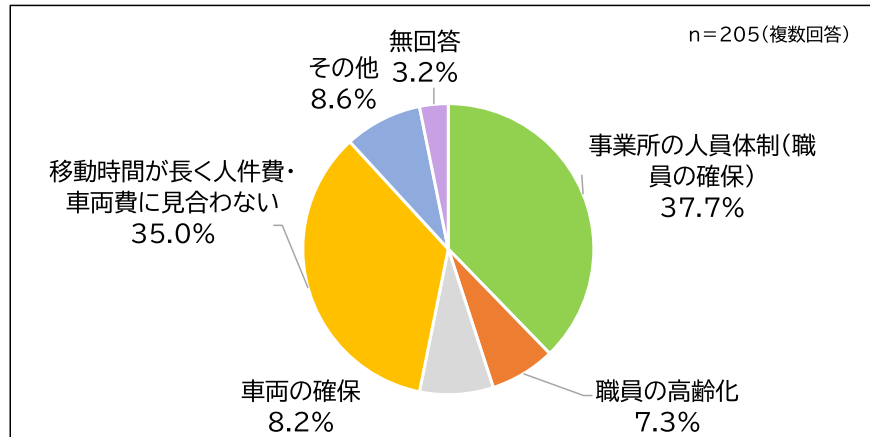
(2) 医療・介護事業所のサービス提供可能な地域



医療機関・薬局を「医療系サービス」、介護事業所を「介護系サービス」として分け、安来市内のどの地域までサービス提供を行うことが可能かをグラフ化した。

南部地域の「布部」「比田」「山佐」「井尻」「赤屋」は、他の地域に比べ提供可能な医療系サービス、介護系サービスともに、不足している状態にあることが明らかになった。

(3) 南部地域にサービス提供が困難な理由



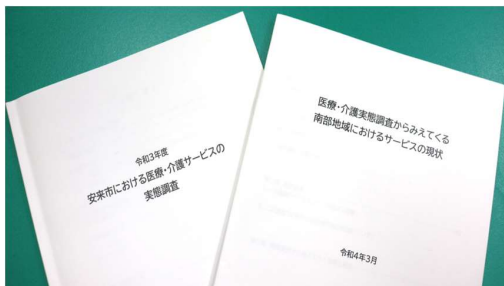
医療機関、薬局、介護事業所において、サービス提供が困難となっている理由を複数回答で求めた。その結果、「事業所の人員体制」が37.8%と最も多く、次いで「移動時間が長く、人件費・車両費に見合わない」との理由が35.0%を占めた。

又、「職員の高齢化」は特に訪問介護においては全体の30%が理由として挙げられていた。今後さらに高齢化が進み、退職者が増えれば人手不足が一段と加速することが懸念される。

■「実態調査」を踏まえての提案

- ・安来市内外の医療機関、薬局、介護事業所への実態調査から見てきた課題は、南部地域における医療・介護サービスの不充足が生じていることである。
- ・南部地域は、人口減少が進み、高齢化率、高齢者世帯、単身高齢者世帯の割合も他地域に比べ高く、今後「老老介護」の増加等が見込まれる。しかし、医療機関、介護事業所等の社会資源が集積する市街地・周辺地域からの移動時間も長く、患者（利用者）宅が地域に点在している為、効率性が低く経費が高みサービス提供者の採算確保が難しい。また、以前は家族が担っていた通院や買い物・食事など日常生活に不可欠な支援の確保や地域の支え合いも困難になっている地域特性がある。
- ・地域包括ケアシステムは「重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供すること」である。
- ・この共通理念を実現するには、とりわけ条件不利地域にある南部地域に対する手厚い支援策が講じられて然るべきといえる。そうした対応こそが、市民の公平な保険料負担とサービス受給につながり、サービスの選択と利用が制限されないための施策といえる。
- ・具体的には、南部地域の地域特性を踏まえ次の事項を提案する。

■安来市南部地域について焦点を絞った「トピック版報告書」も併せて作成。（写真右）



1. 南部地域における「在宅医療・介護サービス」の拡充に向けた取組み

安来市独自の加算や補助制度（移動費・車両費等）の創設により、南部地域へのサービス提供に対するインセンティブを高めることで在宅医療・介護サービスの参入を促進し、サービスの拡充を図る。併せて在宅医療・介護サービスの密接な連携を深め在宅療養生活の質を高める。

2. 医療・介護の「人材確保」に向けた取組み

医療・介護を支える人材確保のため「各種奨学金制度」の整理・充実（奨学金額の増額、就業時期を定めない制度設計等）を図り利用者を増やす取組みが求められる。特に、小中高生への情報発信により将来の担い手確保を図るとともに、県内外問わず幅広い多様な人材確保に向けた情報発信と定住・移住支援（住まい・支度費等）と併せた施策を検討する。又、「介護職員初任者研修」等の資格取得支援により即戦力としての介護人材の確保などが期待される。

■報告書の全文は安来市地域包括支援センターホームページよりご覧いただけます。

<https://www.yasugi-hokatsu.jp/>



令和4年度「こけないからだ体操」のご案内

令和4年度5月より一般介護予防事業「こけないからだ体操」を新たに下記の地区で開始しました。週に1回、体操を行うことで高齢者の要介護・フレイル状態を予防することを目指しています。継続地区と併せると、市内19団体において拡充されることとなりました。

■新規実施地区

校区	地区名	会場	日時
一中	宮内町	社日交流センター	(月) 14:00
二中	大塚町	大塚交流センター	(金) 13:30
広瀬中	八幡町	八幡町公会堂	(火) 10:00
	石原町	下石原公会堂	(水) 10:00
	比田地区	比田交流センター	(水) 13:30

■お近くに会場が無い方のために、市内の高齢者どなたでもご参加いただける会場を設けています。ご興味がありましたら、0854(32)9110までご連絡ください。

会場：ふれあいプラザ「機能訓練室」
日時：毎週木曜日 14:30~15:30
参加費：無料



新任職員のご紹介

川橋 裕子（かわはし ゆうこ） 保健師

松江市出身です。

安来の人と町を知るところからですが、安来に溶け込むような包括職員を目指して頑張りますので、よろしくお願いいたします。

門脇 雅子（かどわき まさこ） 主任介護支援専門員

人と話をするのと読書が好きです！

人とのご縁を大切に、たくさんの方々と出会っていきたくと思っています。よろしくお願いいたします。